

# V. 技術者養成

## 1. 地域人材養成事業

### 1-1 一般研修事業

研修内容	研修期間	氏名	所属事業所名	担当者
成型（原型、機械ロクロ、排泥鑄込み、圧力鑄込み）	平成15年4月8日～10月7日	里見栄造	嘉久正窯	久田松学
熱重量分析、示差熱分析	平成15年5月22日～23日	中村 瑞	(株)ニッチツハイシリカ事業本部	永石雅基
スラグ有効活用法	平成15年7月29日	小峯義尚 向原貴子	授産施設ワイドビジョン	福永昭夫
照明具の製造 （磁器とガラスの融合）	平成15年9月10日～19日 平成15年11月11日～12月26日	木下光春	聖栄陶器(有)	矢野鉄也
照明具の製造 （石膏型）	平成15年9月10日～19日	一瀬龍宏	(株)一龍陶苑	久田松学
	平成15年9月10日～19日 平成15年11月11日～12月26日	小島啓子	雲仙製磁(株)	
	平成15年11月11日～12月27日	一瀬龍宏	(株)一龍陶苑	
照明具の製造 （たたら成形）	平成15年9月10日～19日 平成15年11月11日～12月26日	広田和樹	(株)和山	小林孝幸
		橋本和也	昭和陶器(株)	
		宮田 純	(有)広仙窯	
	平成15年11月11日～12月26日	西浦暢博	(有)正光窯	
		樋渡常司	藍染窯	
		片山賢児	(有)和泉製陶所	
		太田浩司	(有)光玉陶苑	
照明具の製造 （原料調整）	平成15年11月11日～12月26日	飯倉 崇	有田窯業大学校	小林孝幸
照明具の製造 （手びねり）	平成15年11月11日～12月26日	江添圭介	(有)一誠陶器	小林孝幸

研 修 内 容	研修期間	氏 名	所属事業所名	担当者
照明具の製造 (手ロクロ成形)	平成15年11月11日～12月26日	松尾利幸 山下 二	(有)松幸陶芸 (有)山下陶苑	小林孝幸
照明具の製造 (釉の調整)	平成15年11月11日～12月26日	瀬井和文	(株)清山	大串邦男
照明具の製造 (鑄込成形)	平成15年9月10日～19日 平成15年11月14日～12月26日	藤田隆彦	(有)ふじた陶芸	小林孝幸
	平成15年11月14日～12月26日	太田一彦	重山陶器(株)	
照明具の製造 (機械ロクロ)	平成15年11月14日～12月26日	黒崎高春	(株)林千窯	小林孝幸
照明具の製造 (押出成形)	平成15年11月17日～12月25日	太田 聖 谷口禎二	(株)西山 (株)永泉	小林孝幸
上絵付用陶板の製造技術 (機械ロクロ成型)	平成15年11月20日～12月5日	坂口博喜 林田孝男 中石勇二	坂口上絵 林田上絵 中石錦	小林孝幸 山口英次
上絵付用陶板の製造技術 (釉薬調整)	平成15年11月20日～12月5日	豊田泰光 浜田信幸	(有)豊田陶芸 浜田上絵	小林孝幸 山口英次
走査型電子顕微鏡	平成16年2月6日	中尾眞司	長崎東芝セラミッ クス(株)	吉田英樹
蛍光X線分析装置	平成16年2月12日	朝日睦靖	長崎東芝セラミッ クス(株)	木須一正
	平成16年2月16日～20日	飯尾元昭	矢崎部品(株)	
泥漿調整	平成16年3月31日	江頭龍介	岐宿町陶芸の館	小林孝幸

1-2 新製品開発力養成研修事業

(1)

テ　　ー　　マ	量産用御本手の加飾技術
参加者氏名（企業名）	木下光春（聖栄陶器(有)）
内　　容	土物系食器への御本手の加飾を行うため、化粧土及び釉薬の調整、焼成手法等についての研修を行った。
担当者・指導者	陶磁器科 大串邦男

(2)

テ　　ー　　マ	タイルの歩留り向上
参加者氏名（企業名）	木下光春（聖栄陶器(有)）
内　　容	タイルの歩留り向上を目的として、化粧土及び釉の厚みを一定にする方法、及び拡散反射率と光沢度のバラツキを減少させる方法について研修を行った。
担当者・指導者	陶磁器科 大串邦男

(3)

テ　　ー　　マ	新機能性セラミックス製品 光触媒（マイクロアナターゼバルン）の評価技術
参加者氏名（企業名）	松崎征治（(有)メディアオ企画）
内　　容	光触媒の能力を色素分解により評価する手法並びにその補正方法について研修を行った。
担当者・指導者	応用技術科 阿部久雄

(4)

テ　　ー　　マ	栄養塩類除去用セラミックスの製造プロセス
参加者氏名（企業名）	山口紀子（(株)一龍陶苑）
内　　容	泡状セラミックス製品の量産試作のために、原材料の取扱、原料スラリーの管理技術並びに生産性の改善手法について研修を行った。
担当者・指導者	応用技術科 阿部久雄

(5)

テ　　ー　　マ	低火度陶磁器製品の製造技術
参加者氏名（企業名）	松尾勝美、松尾慶一、渡辺一行（長崎県セラミックス研究会）
内　　容	低火度陶石と廃ガラスの配合、粉碎、焼成方法の外、熱膨張測定、曲げ強度の試験方法についても研修を行った。
担当者・指導者	研究開発科 福永昭夫 陶磁器科 秋月俊彦

(6)

テ　　ー　　マ	傾斜機能材料技術を用いた発熱モジュール
参加者氏名（企業名）	梁瀬好康、中村良、長尾徳子、松尾真由子（長崎菱電テクニカ㈱）
内　　容	有機系分散剤添加量及び凍結乾燥法の最適化、常圧焼結法の焼成方法、各種設備機器（X線透過式粒度分布・回転ポットミル・乾燥機・真空焼成機・小型・大型電気炉）の使用方法について研修を行った。
担当者・指導者	研究開発科 狩野伸自

(7)

テ　　ー　　マ	陶磁器用転写紙の直接印刷技術
参加者氏名（企業名）	増元秀子（㈱嘉泉製陶所）
内　　容	陶磁器用転写紙の直接印刷のために、転写下地材の膜厚制御法、インクの取扱方法について研修を行った。
担当者・指導者	応用技術科 阿部久雄

(8)

テ　　ー　　マ	焼却灰の利用化技術
参加者氏名（企業名）	福田寿紀（ハラサンギョウ㈱）
内　　容	焼却灰の有効利用を目的として、灰の粉碎方法やプレス成形による製作技術、焼成（還元、酸化）方法等について研修を行った。
担当者・指導者	陶磁器科 大串邦男

1-3 技術・デザインセミナー事業

(1)

テーマ	食器洗浄機と食器		
期 日	平成15年10月29日		
概 要	家庭における食器洗浄機の普及状況、及び食器洗浄機に対応する食器のあり方について解説。		
講 師	笹子雅純（日本電機工業会）、角谷勝彦（松下電器産業㈱）、鈴木肇（三洋電機㈱）		
受講者	18名	担当者	陶磁器科 兼石哲也

(2)

テーマ	天草陶石の特徴と肥前磁器		
期 日	平成16年 3 月23日		
概 要	天草陶石の組成鉱物の結晶状態や化学成分、分布状態、活用方法について解説		
講 師	濱野健也（東京工業大学名誉教授・神奈川大学名誉教授）		
受講者	16名	担当者	研究開発科 福永昭夫

(3)

テーマ	経営革新に成功して生き残る企業		
期 日	平成16年 1 月23日		
概 要	「変化の大きな時代だからこそ中小企業にチャンスがある」をサブテーマとして、日本経済の停滞要因、知価社会の構築、異業種交流の必要性、配信サービス等について講演。		
講 師	竹内利明（電気通信大学共同研究センター客員教授）		
受講者	52名	担当者	研究企画課 山下行男

(4)

テーマ	「波佐見・三川内地域 陶磁器産業の革新を実現するために」		
期 日	平成16年 2月26日		
概 要	陶磁器産業をとりまく社会、経済、国際的環境変化の捉え方、及び他社、異分野企業の対応、当地域陶磁器産業の革新を実現させるための方策について講演。		
講 師	井上元之（元日本陶器技術部長）		
受講者	46名	担当者	陶磁器科 矢野鉄也

(5)

テーマ	日本の伝統産地が生き残る、今後の対策		
期 日	平成15年12月 5日		
概 要	日本の伝統産地が苦しむ原因（小売り業の現場の問題、製作姿勢の問題、生産者の価値観の変化の問題）、今後の対策（基本に帰る：誰のために何をつくるのか／重要なポイントは：国際化の問題、日本文化の問題）等について講演。		
講 師	岡山暁生（㈱リバーライト代表取締役）		
受講者	82名	担当者	応用技術科 山下行男

(6)

テーマ	空間・食・そしてやきもの		
期 日	平成16年 3月 8日		
概 要	「やきものは食器も食器以外も空間の中で生かされている。これから建築もしくは空間からの視点でやきものを考えてみる」の内容で講演。		
講 師	神谷利徳（㈲神谷デザイン事務所代表）		
受講者	51名	担当者	陶磁器科 兼石哲也

(7)

テーマ	鑄込み成形における欠点と対策について		
期 日	平成16年 3 月22日		
概 要	陶磁器の欠点は焼成後に発生する為、その要因究明が困難である。年間数百件の技術指導の中での指導事例等を踏まえ、陶土、成形、焼成、工程で発生する欠点について解説。		
講 師	大串邦男（窯業技術センター）		
受講者	6名	担当者	陶磁器科 大串邦男

(8)

テーマ	これからの焼き物の考え方（土・釉薬・化粧土・焼成）		
期 日	平成16年 3 月24日		
概 要	釉薬のみでなく陶土を生かした表現。化粧土を生かした表現（現川焼）。また、焼成温度や雰囲気を変える事による表現方法について解説。		
講 師	大西政太郎（釉薬研究所所長）		
受講者	11名	担当者	陶磁器科 大串邦男

1-4 先端技術研修事業

(1)

テーマ	光触媒の製品化と最新情報		
期 日	平成15年 3 月10日		
概 要	酸化チタンにおける光触媒作用は顔料用途には抑制すべきものであったが、現在は汚れ防止材や殺菌用材料として脚光を浴びている。講演では、応用に必要な光触媒の原理、各種応用製品の紹介、今後の光触媒の展開等について概説。		
講 師	渡 孝則（佐賀大学工学部機能物質化学科教授）		
受講者	37名	担当者	研究開発科 狩野伸自

(2)

テーマ	セラミックスコーティングによる土壌改質		
期 日	平成16年 3 月12日		
概 要	岡山県産の珪藻土を薬品処理することで珪藻土本来の形状を維持し、その表面に新たな層を形成させた材料の開発と、また、生理活性物質を含浸した珪藻土を稲の育苗マットに導入してフィールド試験を行った結果について紹介。		
講 師	河野将明（岡山セラミックス技術振興財団研究員）		
受講者	20名	担当者	応用技術科 阿部久雄

(3)

テーマ	超臨界流体で何が出来るか		
期 日	平成16年 3 月22日		
概 要	環境に優しいプロセスとして近年、注目を集めている水、二酸化炭素の超臨界状態を反応媒体として利用する技術について紹介。超臨界流体の特徴および用途について、装置の構成を交えながら説明。		
講 師	相澤崇史（産業技術総合研究所 超臨界流体研究センター）		
受講者	9 名	担当者	研究開発科 吉田英樹



(4)

テーマ	食品製造工程における香気成分について		
期 日	平成15年10月27日		
概 要	食品加工時に発生するニオイと定義付け、成分の数、 <sup>しきい</sup> 閾値のレベル、代表的な成分、評価方法について講演があり、センサでの問題点と食品の加熱加工装置の自動化などについて討議し、センサの食品加工装置への応用可能性を検討した。		
講 師	下田満哉（九州大学大学院農学研究院 助教授）		
受講者	13名	担当者	研究開発科 永石雅基

## 2. 学生実習(インターンシップ等)受入

(1)

実 習 生	佐世保工業高等専門学校 物質工学科 宮崎眞臣		
期 間	平成15年 7月28日～8月8日		
実習内容	従来品よりも軽い天草磁器の作製のため、焼結体特性に及ぼすムライトバルーンの粒度と添加量の影響について研修を行った。		
担 当 者	陶磁器科 秋月俊彦		

(2)

実 習 生	県立長崎工業高等学校（41名）		
期 間	平成15年11月27日		
実習内容	セラミックスについて説明し、開発製品の見学を行った。		
担 当 者	研究開発科 永石雅基		

(3)

実 習 生	県立波佐見高等学校（163名）		
期 間	平成15年12月16日		
実習内容	素焼への染付（下絵付）加飾の実習、及び開発製品の見学を行った。		
担 当 者	福永昭夫、兼石哲也、矢野鉄也、久田松学、永石雅基、桐山有司、秋月俊彦、吉田英樹、狩野伸自、小林孝幸、木須一正、山口英次		